

折々の銘 3

【蓬萊】ほうらい

明けましておめでとうございます。

今年も銘を話題に楽しくお付き合い戴ければ幸いです。

皆様は初釜の床に蓬萊山飾りをなさいますか。

蓬萊山とは中国の神仙思想に説かれた仙山です。神仙思想とは中国で古くから伝えられてきた仙人の伝説や不老不死の方法などを説く、後の道教の母体ともいえる民間信仰です。日本では浦島太郎などの民話に影響が見られます。

蓬萊は山東半島の東方、渤海の海中にあり、西方の崑崙山に対峙し、方丈(ほうちやう)瀛州(えいしゅう)と共に三神山に数えられる東方の代表的仙山です。日本では蓬ヶ嶋(よもぎがしま)という名でも呼ばれています。不老不死の霊山で仙人が住む金銀でできた宮殿があるそうです。

不老不死を願った秦の始皇帝がこの山の仙薬を求め手を尽くしたことはよく知られた話です。

『史記』封禅書からその様子を要約しご紹介しましょう。

蓬萊、方丈、瀛州の三神山は、仙人がいて不老不死の薬があり、鳥や獣も白一色だそうです。この三山は渤海にあります。歴代の王たちは家来を差し向け、そこにあるという不老不死の薬を探させました。しかし、これらの島は遠くから見れば雲のようであり、近寄れば水の中にあり、今にも到着しようとする風で船は離されてしまい、結局だれも行き着くことができなかったということです。

これら『史記』に描かれた三神山の様は蜃気楼を連想させますね。事実、渤海には蜃気楼が出現するという事です。

そういえば『竹取物語』に、かぐや姫が蔵持皇子(くらもちのみこ)の求婚に対し、蓬萊の玉の枝を持ってくれば応じると無理難題を投げかけた話がありましたね。

蔵持皇子は工匠に偽物を作らせ騙そうとしますが、工匠が工賃の取り立てに一同の前に現れたため企みは露見してしまいます。

初釜の床の鏡餅飾を蓬萊山飾りということは、皆様ご存知のとおりです。これは蓬萊山になぞらえた祝儀の飾物です。飾り方には多様な様式がありますが、三方の上に白紙、羊歯(しだ)、昆布、のし鮑、柑橘類、米、餅などの縁起物をのせ床に飾るのが基本のようです。裏千家の方は千歳盆の蓋を反して実の上に置き、三方の代わりにすることがあります。

昔は満年齢ではなく数え年、すなわち年齢を誕生日の回数ではなく、生まれた年を一歳として正月を迎えるたびに一つ加える数え方をしましたので、正月は長寿を祝う日でもあったわけです。蓬萊は不老不死と結びつくことから蓬萊山飾りと称して縁起物を山のように飾ったのです。

茶道具の銘の例では武野紹鷗・今井宗久所持の大井戸茶碗に「蓬萊」の銘があります。現在は藤田美術館蔵です。近衛尚嗣の銘という伝えがあります。

同じ銘の滴翠美術館蔵の青井戸茶碗は石州の箱書です。ともに井戸茶碗の銘ですね。堂々とした井戸の姿が「蓬萊」の銘に合うのでしょうか。

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

~ Copyright (C) 2011 ~私の書齋~ 森田文康. All Rights Reserved.~